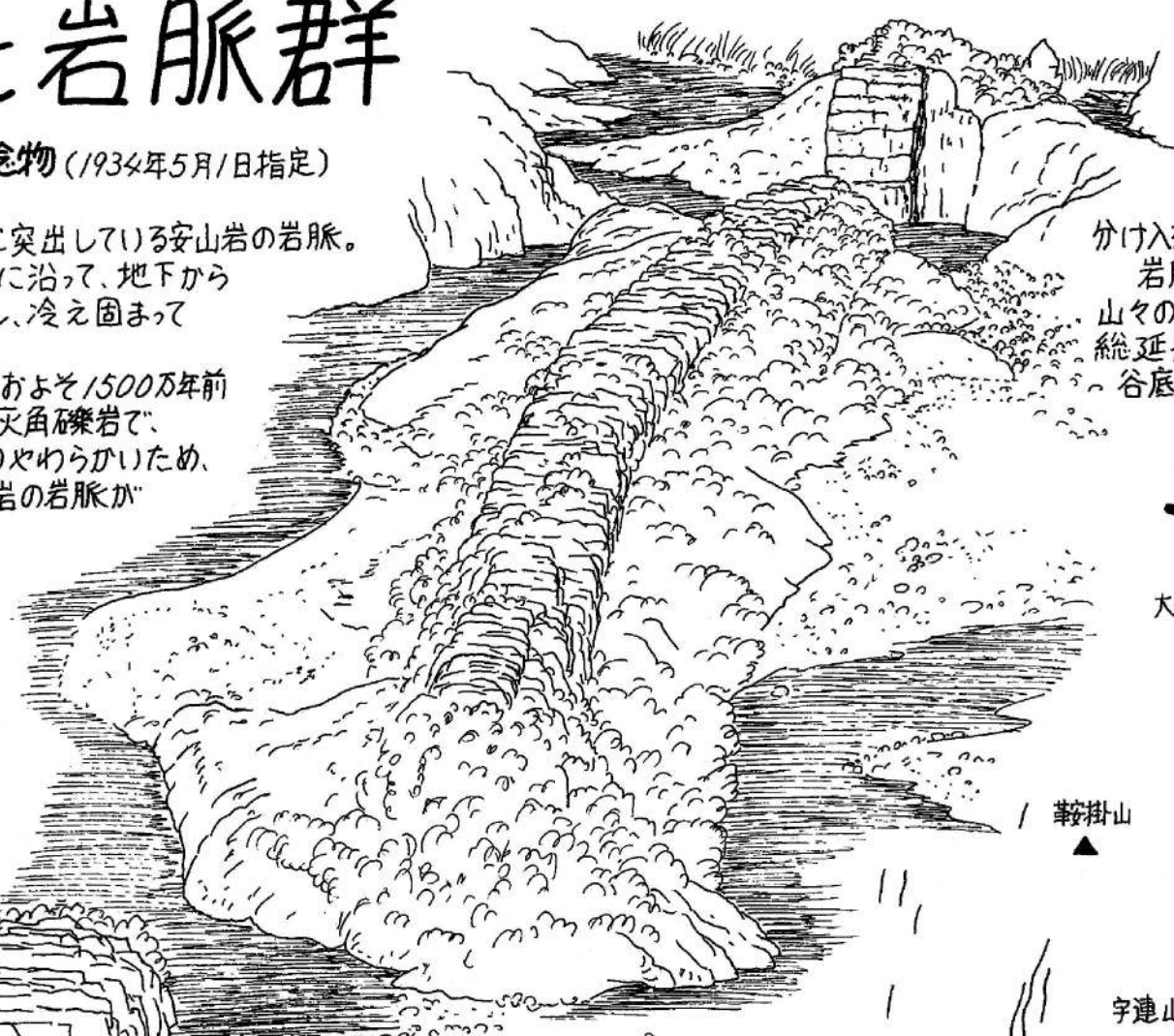
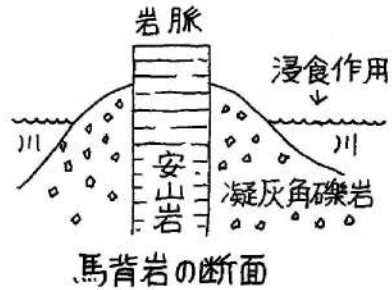


# 馬背岩と岩脈群

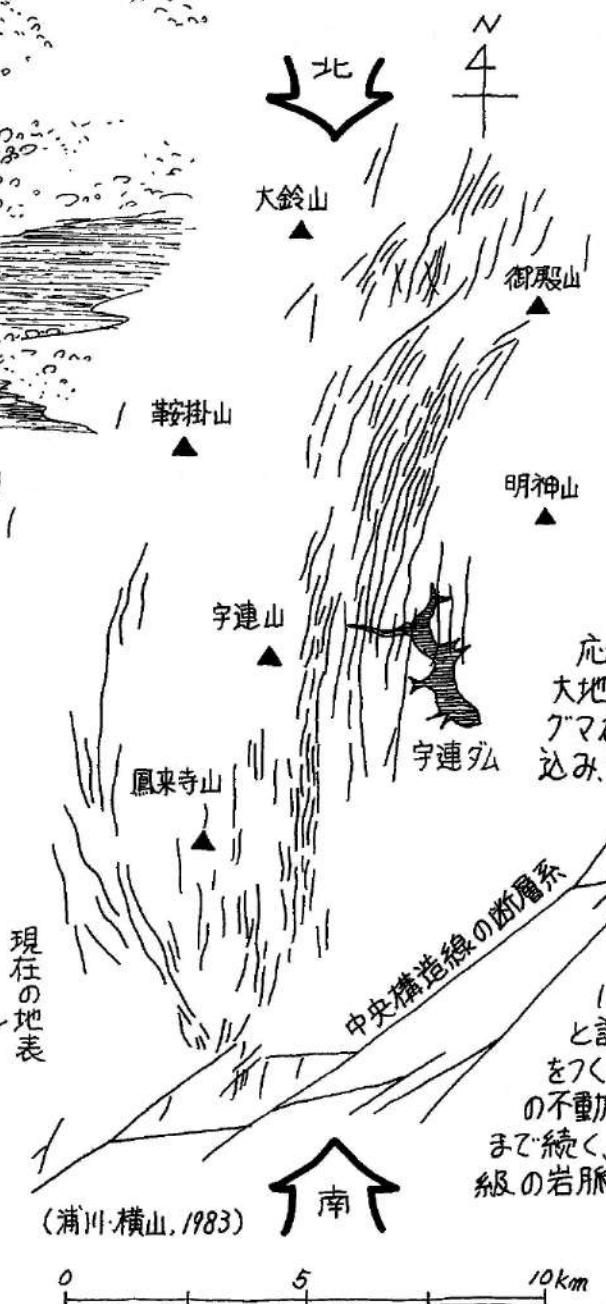
「馬背岩」国指定天然記念物 (1934年5月1日指定)

湯谷の宇連川河床の中央に突出している安山岩の岩脈。  
 岩脈とは、地盤の割れ目に沿って、地下から上昇してきたマグマが貫入し、冷え固まってできた平板状の岩体。  
 馬背岩のまわりの岩石は、およそ1500万年前に活動した設楽火山の凝灰角礫岩で、馬背岩をつくっている安山岩よりやわらかいため、川の浸食に弱く、硬い安山岩の岩脈が馬の背のように突き出た形になった。



「障子岩岩脈」新城市天然記念物 (1987年3月10日指定)

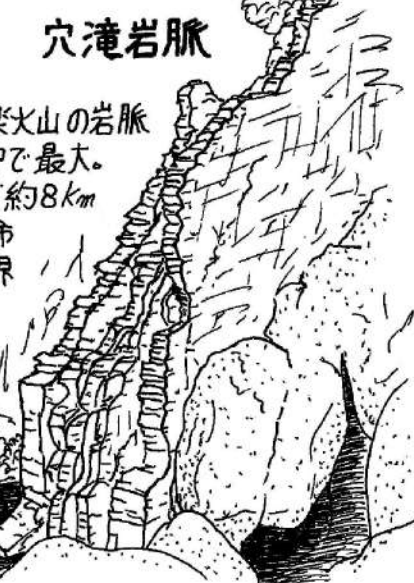
宇連ダムに注ぐ砥石沢の谷に分け入るとそそり立つ岩壁が現れる。  
 岩脈の中は約10m、最大20m。  
 山々の尾根をつくり、万里の長城を思わせる。総延長2.9kmに及ぶ大岩脈である。  
 谷底では沢を横切り、滝をつくっている。



岩脈群

設楽地方の火山活動の最末期 (約1300万年前ごろ)、安山岩、玄武岩、デイサイトなどが設楽層群とその周辺の基盤岩を貫く南北方向の平行岩脈群 (中央岩脈群) や設楽岩床群として形成された。

これは設楽地方に南北方向から大きな応力 (ストレス、内部に生じる力) がはたらき、大地に南北のたくさんのき裂をつくり、そこにマグマが上昇して入り込み、つくられた。

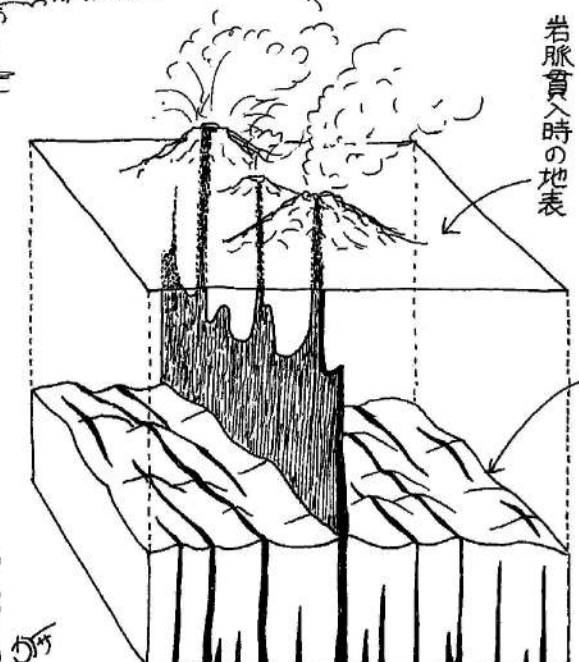


穴滝岩脈

設楽火山の岩脈群の中で最大。総延長が約8kmに及び、新城市と設楽町の境界をつくり、県民の森の不動滝の岩脈まで続く、国内最長級の岩脈。

## 設楽地方 (奥三河) の岩脈分布の特徴

岩脈群の中は約3km、長さ約20kmの範囲で設楽盆地の中央に分布している。  
 過去におきた広域割れ目噴火の記録であり、岩脈の中を足すと数百メートルにもなる。  
 岩床は設楽盆地の周縁部の東部と西部に見られ、一般に設楽盆地の中央に傾く堆積岩層に調和的。西部には花崗岩を貫く岩床もある。



設楽盆地の岩脈モデル (蒲川 1985 を改変)

